

第7回 公共サービス改革法に基づく民間委託統計調査に関する技術検討会
議事要旨

- 1 日 時 平成25年1月31日（木） 14:00～16:00
- 2 場 所 農林水産省統計部第1会議室（北別館3階、ドア番号314）
- 3 出席者
（委員） 椿広計座長、助川正文委員、安倍澄子委員
（事務局） 統計部生産流通消費統計課、消費統計室、統計企画管理官

4 議 題

- (1) 平成22年度市場化テスト対象3調査の実施状況（案）について
 - ① 牛乳乳製品統計調査の実施状況（案）について
 - ② 生鮮食料品価格・販売動向調査の実施状況（案）について
 - ③ 木材流通統計調査のうち木材価格統計調査の実施状況（案）について
- (2) その他

5 議事及び要旨

事務局から各調査ごとに作成した実施状況（案）について説明、質疑を経た後、実施状況（案）についての修正は座長の一任を得た。

委員からの主な質疑は以下のとおり。（○：委員からの発言、→：事務局からの発言）

【質疑等】

(1) 牛乳乳製品統計調査

- 疑義照会の主な内容の、過去のデータと比較した対象データの「妥当性」を聞いたとは、どういうことか。
→ 前月や1年前のデータと比べてどのくらいの増減があるのか、工場によって違うため、過去のデータと比較して増減が大きい場合に「間違いではないか。」等を確認しているということである。
- 「間違っているのではないのか。」という意味での「疑義」ではないのか。過去のデータとの増減理由を聞くことは「疑義」には当たらないのではないか。
→ 全ての照会が「誤りではないか。」と疑って照会しているものではない。一定の基準に基づき照会をするということであるので、件数が多いから民間事業者の対応が悪いということではない。
- 疑義照会の主な内容については、誤解を及ぼさないように、やるべきことをやっていると思われるようにした方がよい。
→ わかるように記載したい。
- 確保すべき質は、第1期に比べると、民間事業者が変更したにもかかわらず、順調に実施できたと思われる。

- 調査客体もアウトソーシングに慣れたということではないか。
- 経費の削減も、比較的本省に負担をかけないで効率的にできているのではないか。
- そのように考えている。
- 調査客体への謝礼支給に関して、相当数の辞退事業所があるということであるが、謝礼が必要なのか検討すべきではないか。
- 調査客体への調査項目も細かく、数も大変多いため、謝礼については、国で実施していた時から支給している。謝礼支給の有無によって、調査に協力していただける調査客体にも影響が出る可能性があり、調査環境を維持するのに役立っている。
- 調査客体への対応状況で、調査客体へのアンケートは、第1期実施状況の時も行っていたのか。
- アンケートは、第1期の実施状況の時も行っている。第2期は第1期と比べて、調査項目を絞り、実施期間を短くして行った。結果も第1期に比べて悪い状況にはなっていない。
- 第1期では、民間委託したことで、調査拒否もあったが、第2期は、確保すべき質、実施経費の問題共、第1期に比べると落ち着いたと言える。新プロセスへ移行する方向で進めてはどうか。

(2) 生鮮食料品価格・販売動向調査

- 実施経費のなお書きについて、増加の部分はどうか。細かく記載しないと誤解を招くのではないか。
- 第1期当初は、民間事業者による審査が不十分であったため、本省職員がほとんど対応するなど問題が多かったが、同一の民間事業者が対応した第2期では、改善した。第1期において不十分であった審査などに要する人件費を見積もり入札したことから、経費が増加している。
- 民間委託する前の国の回収率は、どのくらいあったのか。
- 平成19年が80.8%、平成18年が77.7%と、ほぼ同じくらいである。
- 疑義照会の件数が少ないのは、逆に心配になる。
- 第1期に比べれば問題はないと考える。
- 第1期と比べると格段に良くなっていると理解されるために、第1期においては、統計の品質を確保するために国の補完（農林水産省でコストを負担していたこと）があったこと、第2期においては、手離れ（確保すべき質が改善していること）したことに対するコメントがあった方が良いのではないか。
- 経費のところでそれが分かるように、なお書きに確保すべき質のことを記載した方が良いのではないか。国よりコストが減じ、質が向上していることを強調したらどうか。
- 御指摘のあった内容についてコメントを記載する方向で検討する。
- 第1期の事業との比較について記述する必要があるのか。
- 公共サービス改革推進室と相談し、従前、国が実施していた時に対する第2期

の評価のみについて記載するが、経費は第1期との増減額について記載することとなった。

- 生鮮食料品価格・販売動向調査も、第1期では心配したが、第2期は良好な実施状況であるので、新プロセスへ移行で良いのではないかと。

(3) 木材価格統計調査

- 回収率は100%であったということで評価できる。
 - A4版1枚の調査票でシンプルな調査なので、協力が得られ易いこともある。
- アンケート結果について、他の調査に比べて無回答が多いのではないかと。
 - 回答は、「良い」か「悪い」で選択していただき、「ふつう」の選択肢を入れてなかったため、悩んだ調査客体の回答が無回答となったのかもしれない。
- アンケート結果は否定的な内容ではないので、問題はない。
- 経費の面でも、大丈夫である。
- 木材価格統計調査においても、確保すべき質及び経費は、全体的に良好な実施状況であるので、新プロセスへ移行する方向で進めて良いのではないかと。

- 以上 -